



カトリック中央協議会  
CATHOLIC BISHOPS' CONFERENCE OF JAPAN

会 報

《2013年12月号（508号）》

目 次

報 告

・特別臨時司教総会 .....	1
・常任司教委員会 .....	2
・学校教育委員会 .....	3
・エキュメニズム部門 .....	4
・難民移住移動者委員会 .....	6
・カリタスジャパン .....	6
・正義と平和協議会 .....	8
・部落差別人権委員会 .....	9
・日本キリスト教連合会 .....	10
・中央協議会事務局（総務） .....	11
公文書 .....	12

特別臨時司教総会

■2013年度特別臨時司教総会

日 時	2013年10月4日（金）13:00-16:00	
場 所	日本カトリック会館 マレラホール	
出席者	会 員	16人
	招請者	1人
	オブザーバー	3人
	総会事務局	8人

## 報 告

1. 今後の大震災への教会の対応について  
2013年度定例司教総会において、東日本大震災の震災対応で重要であったと思われる点について、今後の震災対応に生かすため、全司教にアンケートを依頼した。その回答を基に、分析した集計結果が報告された。
2. 教皇庁改革枢機卿会議への提言について  
日本カトリック司教協議会会長としてFABC会長のオズワルド枢機卿からの要望に応じて提出した、教皇庁改革枢機卿会議への提言が岡田大司教より報告された。
3. 2014年度 日本カトリック司教協議会 年間活動計画について  
本年9月の常任司教委員会において、2014年度の予算作成に当たり、司教協議会の年間活動方針を確定したことが報告された。

## 審 議

1. 教皇フランシスコの日本への招待について  
教皇フランシスコを日本に招待することを承認した。
2. 谷 大二司教の退任に伴う司教協議会内の役職変更について  
さいたま教区司教を退任した谷 大二司教が司教協議会で担っていた、正義と平和協議会の後任の担当司教に松浦悟郎司教を選出することを承認した。
3. 「第2バチカン公会議文書公式訳改訂特別委員会」解散に関する件  
「第2バチカン公会議文書公式訳改訂特別委員会」の解散を承認した。

# 常任司教委員会

## ■10月定例常任司教委員会

日 時 2013年10月3日(木) 10:00-15:00  
場 所 日本カトリック会館 会議室2  
出席者 委 員 7人  
事務局 8人

## 報 告

1. 新福音化委員会の活動方針について  
9月5日に第1回目の会合が開催され、「新福音化委員会」の活動方針を話し合ったことが報告された。新委員会としては、「信仰年」後の3年間をフォローアップの期間ととらえ、まず、各教区の「信仰年」の取り組みを報告してもらい準備を開始する。
2. FABC 広報局からの返答について  
9月の常任司教委員会で、FABCから依頼のあったカレン語放送への援助は、現行のままカレン語放送の援助金として送金することが決定したため、その旨、FABC 広報局に通知したところ、司教協議会として話し合ってくれたことへの感謝と、例年通りの援助決定に対する礼状が届いた。
3. 中央協議会口座の東日本大震災復興義援金残高について  
9月30日現在の中央協議会口座の東日本大震災関連・義援金残高報告が行われた。義援金総額は73,500,693円、支出合計は、36,313,824円、残高は37,186,869円となった。

## 審 議

2013 年度特別臨時司教総会の内容確定について

2013 年度特別臨時司教総会で以下の報告・審議事項を取り扱うことを確定した。

### 報告事項

- ① 今後の大震災への教会の対応についての提言に関する報告
- ② 教皇庁改革枢機卿会議への提言に関する報告
- ③ 2014 年度 日本カトリック司教協議会 年間活動計画に関する報告

### 審議事項

- ① 教皇フランシスコの日本への招待に関する件
- ② 谷司教の後任担当司教選出に関する件
- ③ 「第 2 バチカン公会議文書公式訳改訂特別委員会」解散に関する件

## 学校教育委員会

### ■ 第 140 回学校教育委員会

日 時 2013 年 10 月 17 日 (木) 15:30-17:30

場 所 幼きイエス会 ニコラ・バレ修道院 (東京・千代田区)

出席者 10 人

## 報 告

1. 新秘書紹介
2. 日本カトリック学校連合会の動き

河合委員より

「理事長事務長合同研修会」で理事長、事務長、総長たちの間の情報共有に問題がある。

永尾委員より

幼稚園連盟では 11 月に後継者養成研修会を名古屋で開催する。全国大会は来年の名古屋を最後に地区ごとの研修会となる予定である。

大学連盟より

縮小・閉鎖していく短大が増えていく。

また前回決議した、教育再生実行会議第一次提言における「道徳の教科化」提言に関しての「要望書」を提出したことと、「道徳の教科化」に危機感を持っていないところがあり、カトリックが宗教教育をしているのかという自らの反省事項でもあることが報告された。

## 審 議

1. 「第 27 回校長・理事長・総長管区長の集い(集い)」(2014 年 4 月 28 日-29 日)の企画について  
テーマ・講師・交渉担当について

前回では「道徳教育とカトリック学校の宗教教育」「建学の精神」「殉教者」「学校と教会の協働」の 4 つのテーマに絞られた。更なる絞り込みとテーマ・講師候補について検討した。

「集い」について以下のようなポイントで意見交換をした。

- ・池長委員長の意見

高齢化により修道者はかろうじて理事長、という状況で、校長も信者で無い人が増えていく。そういう状況で「修道者がいなくてもカトリック教育をやるのか。何が本質か、やるなら何をするのか」を深めなければならない。

- ・教皇の人間観、自己点検基準

- ・建学の精神
- ・教員養成
- ・タイトルについて

以下の3点について結論に至った。

「カトリック学校であるために」を念頭に置きながら、

①自己点検基準について「司教団としてのねらい」「司教団の望むカトリック学校」と「現教皇の人間像」として基調講演を司教2人に依頼する。

②教会から問題提起していく方向性

A 司教団からは「許可基準」と「教皇の強調していること」

B ◎建学の精神 梶山義夫師に「イエズス会に見る『仕える』」のテーマで依頼する。

◎どんな人を育てるか

講師 未定

内容 ・新しい方向づけをしている学校

・悪戦苦闘しているところ

・養成された人の中から

今回は上記のことを考慮して、「集い」のテーマの言葉を確定する

③「長崎・五島研修旅行」について「集い」で報告する。(10分程度)

2. 「2014年度事業計画の概要」について

前回結論に基づき改訂した「2014年度事業計画の概要」を事務局より報告した。2014年度は前年並みの数字だが、2015年度は長崎・五島研修旅行があるので経費増が予想される。

3. 2014年ー2015年の事業企画のための2013年度内合宿の検討

次回継続審議とする。

次回委員会 2013年11月7日(木)15:30-17:30 幼きイエス会 ニコラ・バレ修道院

## エキュメニズム部門

### ■第89回聖公会／ローマ・カトリック合同委員会

日 時 2013年10月1日(火)14:00-16:00

場 所 日本聖公会管区事務所(東京・新宿区)

出席者 聖公会 7人

カトリック 9人

欠席者 聖公会 1人

カトリック 2人

#### 報 告

最近の聖公会・カトリック教会の動向についての情報交換

1. 聖公会

①沖縄教区主教(ダビデ上原 榮師)の按手聖別・着座(9月7日)

②主教会の開催(10月9日-11日、中部教区・軽井沢)

③日本福音ルーテル教会・日本聖公会合同礼拝(9月14日、日本福音ルーテル東京教会)

④パキスタンでの聖公会教会の襲撃(9月22日)

⑤第10回世界教会協議会(WCC)総会の開催(10月30日-11月8日、韓国・釜山)

⑥西原廉太『聖公会の職制論 エキュメニカル対話の視点から』(聖公会出版)の刊行

⑦第2回世界聖公会平和協議会（4月16日－22日、沖縄）

## 2. カトリック教会

①新教皇フランシスコ教皇の選出後6か月

②2013年度定例司教総会（6月10日－13日）

③新札幌司教（ベルナルド<sup>カトリック</sup>勝谷<sup>カトリック</sup>太治師）の任命

④谷 大二さいたま司教の退任（7月27日）

⑤『第二バチカン公会議公文書改訂公式訳』の刊行（9月29日）

## 審 議

1. ARCIC（聖公会－ローマ・カトリック教会国際委員会）合意声明 Life in Christ: Morals, Communion and the Church（1994年）翻訳の検討。次回会議で最終確認を行う。
2. 第二バチカン公会議『エキュメニズムに関する教令』公布50周年（2014年11月21日）に向けての企画についての話し合い。

次回開催予定 2014年2月27日（木）14:00－16:00 日本聖公会管区事務所

## ■第67回ルーテル／ローマ・カトリック共同委員会

日 時 2013年10月1日（火）17:30－19:30

場 所 イエズス会岐部ホール（東京・千代田区）

出席者 ルーテル 6人

カトリック 9人

欠席者 ルーテル 2人

カトリック 2人

## 報 告

### 1. 両教会の動向についての情報交換

#### (1)カトリック教会

①新教皇フランシスコ教皇の選出後6か月

②2013年度定例司教総会（6月10日－13日）

③新札幌司教（ベルナルド<sup>カトリック</sup>勝谷<sup>カトリック</sup>太治師）の任命

④谷 大二さいたま司教の退任（7月27日）

⑤『第二バチカン公会議公文書改訂公式訳』の刊行（9月29日）

#### (2)ルーテル教会

①国際ルーテルーカトリック対話委員会の開催（8月12日－20日、京都市）

②From Conflict to Communion: Lutheran-Catholic Commemoration of the Reformation in 2017 の刊行

③日本福音ルーテル教会・日本聖公会合同礼拝（9月14日、日本福音ルーテル東京教会）

④ルター訳新約聖書（1545年）の「メリアン聖書」（1630年印刷）の発見

### 2. ルーテルーカトリック教会間対話を踏まえた出版企画の制作状況の報告

## 審 議

1. 共同文書 From Conflict to Communion: Lutheran-Catholic Commemoration of the Reformation in 2017 の翻訳を小委員会を設立して進めることを決定した。
2. 2014年『エキュメニズム教令』公布50周年記念合同礼拝、2017年宗教改革500周年記念行事の準備

について協議した。

次回予定

2014年3月6日(木) 14:00-16:00 ルーテル市ヶ谷センター(東京・新宿区)

## 難民移住移動者委員会

### ■AOS 船員司牧コア会議

日 時 2013年9月20日(金) 13:00-18:00

場 所 サクラファミリア 会議室(大阪市)

出席者 7人

審 議

2013年度 AOS 全国会議開催について

今年度の AOS 全国会議について開催地、日程、プログラムの検討を行った。

### ■APALA(アパラ:ラテンアメリカ人司牧者会)

日 時 2013年9月13日(金)14:00-14日(土)15:30

場 所 南山大学ロゴスセンター(愛知・名古屋市)

参加者 35人

出席者 3人

テーマは『共同体の中で信仰を深める ～共に成長するために』。インテグレーションへの道の試み、在留特別ビザ取得に関するケーススタディ、教皇フランシスコの信心会のメッセージについて体験が発表され、分かち合いがあった。また、2014年度優先課題を挙げ、次回の司牧者会までに準備することになった。

## カリタスジャパン

### ■第1回事務局会議

日 時 2013年9月5日(木) 15:00-18:00

場 所 日本カトリック会館 会議室4

出席者 10人

報 告

1. 2014年四旬節小冊子について
2. 反貧困キャンペーンについて  
国際カリタスの反貧困キャンペーンに連動して日本国内でもキャンペーンを推進する。
3. 啓発部会の新体制ならびに活動予定について

審 議

カリタスジャパンの国内援助戦略について、以下の観点で審議した。

- ・カリタスジャパンの国内援助の在り方

- ・現状課題の整理
- ・カリタスジャパン教区担当者の役割
- ・案件審議方法の改善

#### ■第4回援助部会会議

日 時 2013年9月19日（木）9：00－14：15

場 所 日本カトリック会館 会議室2

出席者 9人

#### 報 告

1. アフリカ（ケニア・ルワンダ・ウガンダ）視察（7月24日－8月10日）を実施し、プロジェクト現場を訪問、今後の支援の方向性について協議した。
2. 東日本大震災関連
  - ・カトリック教会として「東日本大震災の祈り」を全国から募集し、来年3月に向けて新たな祈りを作成する予定。
  - ・各ベースでは、引き続き「お茶っこ」やイベントなどの心のケア活動を行っている。
  - ・ベース活動の振り返りを順次実施していく（仙台教区サポートセンターおよびカリタスジャパンがファシリテーターとして参加）。
3. 国際カリタスの反貧困キャンペーンに連動し、カトリック学校との連携の下、幾つかのイベントを企画している。

#### 審 議

1. 以下の海外視察を承認。
  - (1)バングラデシュ（11月28日－12月11日）
  - (2)パキスタン（2014年1月）
2. カリタスインド支援については次期3年間も年間一括援助を継続するが、年額に関しては減額の方向で交渉していく。
3. 国内援助ガイドラインについて、改定案を検討した。出た意見をまとめ、次回カリタスジャパン委員会、その後のカリタスジャパン教区担当者会議に諮る。
4. 国際カリタスの事務局運営費を確保する方法について、国際カリタスによる提案を検討。
5. カリタスバングラデシュ少数民族教育支援の評価費用として、3,213 USドルの支援を承認。
6. 援助審査 6件（国内一般1、東日本大震災2、海外一般3）を審査、以下の3件を承認、2件を保留、1件を次回審査会への付託とした。
  - (1)武蔵野ダルク「女性ナイトハウスシェルター設立」1,700,000 円
  - (2)パキスタン「コミュニティに根ざした災害リスク管理」30,000 ユーロ
  - (3)イラク「母子健康支援」30,000 USドル
7. 国際カリタス緊急支援要請(Emergency Appeal/EA) 以下2件の支援を決定。
  - (1)パキスタン「洪水災害緊急支援（EA15/13）」20,000 ユーロ
  - (2)ペルー「寒波被災者支援（EA16/13）」10,000 USドル

次回日程 2013年11月27日（水）13:30－17:00

## ■第6回なんみんフォーラム（FRJ）運営委員会会議

日 時 2013年9月25日（水）15:00-17:00  
場 所 イエズス会 岐部ホール（東京・千代田区）  
出席者 カリタスジャパンより1人

### 報 告

1. 「第三国定住難民に関する提言」検討会（仮称）について
2. 収容代替措置三者協議会について

### 審 議

1. マリアメディカルサポート基金の運用について
2. 移住労働者と連帯する全国ネットワーク（移住連）による省庁への提案書について

## 正義と平和協議会

## ■事務局会議

日 時 2013年10月8日（火）16:00-18:00  
場 所 日本カトリック会館 会議室8  
出席者 4人

### 報 告

1. 2014年全国集会福岡大会実行委員会（10月6日）について  
基調講演、テーマ、分科会など。
2. 宗教者九条の和「シンポジウムと平和巡礼 in 沖縄」（9月28日）について
3. 練成会（11月30日、12月1日）の進捗状況について

### 審 議

1. NCC 平和・核問題委員会会議への派遣者について
2. 全国会議（2014年1月31日-2月2日）について
3. 集団的自衛権、秘密保全法への取り組みについて意見交換。

## ■学習会

日 時 2013年10月15日（火）18:30-20:30  
場 所 真生会館（東京・新宿区）  
参加者 30人  
テーマ 「集団的自衛権行使容認のもくろみ」  
講 師 半田 滋さん（東京新聞論説兼編集委員）  
共 催 東京教区正義と平和委員会

## ■NCC 女性委員会

日 時 2013年10月9日（水）10:30-13:00  
場 所 日本キリスト教会館 会議室（東京・新宿区）

出席者 カトリックから1人

## 報 告

1. 各教派、団体
2. 世界祈祷日関係
3. 各委員会

## 審 議

1. 『ともに証を』編集について
2. 世界祈祷日の献金配分および式文について
3. 世界祈祷日の歩み 2009年版の改訂版作成について
4. 今後の活動について
  - a. 平和・核問題委員会と共催でフォーラムの開催を検討する。
  - b. 女性の視点で聖書を読む学習会を検討する。

### ■ さようなら原発 1000万人アクション実行委員会

日 時 2013年9月24日(火) 18:00-20:30

場 所 真生会館(東京・新宿区)

出席者 カトリックから1人

## 報 告

1. 署名について  
9月15日現在で8,333,921筆。沢田研二コンサートツアー会場や、脱原発関係の映画上映会場で署名活動を継続する。
2. 「再稼働反対! 9・14 さようなら原発大集会 in 亀戸」(会場 東京・亀戸中央公園)  
参加者 9000人

## 審 議

1. 「10・13 No Nukes Day 原発ゼロ統一行動」  
日時 10月13日(日) 13:00-19:00 場所 日比谷公会堂および国会前(東京・千代田区)  
共催 首都圏反原発連合、原発をなくす全国連絡会  
役割分担やスケジュール確認を行った。
2. 署名の拡大と提出について  
10月15日開会予定の臨時国会期間中に提出をする。関連して、院内集会、屋外集会、政党要請行動を検討する。
3. 今後の取り組みについて意見交換。

## 部落差別人権委員会

### ■ 定例委員会

日 時 2013年10月9日(水) 11:00-16:00

場 所 日本カトリック会館 会議室2

出席者 17人

## 報 告

1. 今期（2013年9月1日－2016年8月31日）の秘書・委員について
2. 2013年度第2回定例委員会（7月18日）
3. 夏季合宿「武州鼻緒騒動 ～解放を求めるたたかい」（7月27日－7月28日）
4. 教皇大使への書簡（「出世主義はハンセン病」発言について）
5. シンポジウム「狭山事件50年と国家権力」（9月21日）
6. 大阪教会管区部落差別人権活動センター
7. 2013年度特別臨時司教総会
8. 「同和問題」にとりくむ宗教教団東京地区連帯会議（東京同宗連）

## 審 議

### 1. 全国会議

11月3日（日）－4日（月）に京都で行う全国会議について

テーマを「人が大切にされる社会をめざして ～私たちの役割は何か～」とする。

両日ともに講演会があり、それを消化する時間が必要との指摘があり、二日目の午後に討議の時間を設け、解散時間を15時に延長した。

### 2. 2014年春季合宿

テーマは「狭山事件50年 石川一雄さんを支えて」、講師を石川早智子さん、日程を2014年3月29日（土）－30日（日）とする。会場は鳴門教会（高松教区）で、フィールドワークは徳島市の芝原地区で行う。

### 3. 来年度（2014年度）プランについて

来年度は全国会議を夏（7月前半）に、また合宿を秋（10月）に行う案について基本的に了承された。今後3年間の課題について出席者がそれぞれ意見を述べた。全国会議、事務局会議で引き続き検討する。

### 4. 「ハンセン病首都圏市民の会」からの依頼について

12月開催の連続講座を後援することが了承された。

## 日本キリスト教連合会（日キ連）

### ■2013年度第2回常任委員会

日 時 2013年7月8日（月）17：30－19：00

場 所 ルーテル市ヶ谷センター 2階議長室（東京・新宿区）

出席者 9人

事務局 1人

## 報 告

1. 日本宗教連盟（日宗連）
2. 東京都宗教連盟（都宗連）
3. 事務局
  - ・佐藤丈史前委員が日キ連顧問に就任したこと、7月開催の定例会の参加人数と支出、前回常任委員会以降の日キ連あての文書について
  - ・国土交通省より調査協力の文書が日キ連委員長あてに届いたが、各教会において個別に対応することを確認した。

## 審 議

### 1. 常任委員（佐藤前委員の後任）選任について

佐藤前委員を通し、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団理事長の細井 眞さんと交渉した結果、教団理事・事務担当である本田勝弘さんが推薦された。

本田さんを常任委員とすることを承認し、任期は佐藤前委員の残任期間となることを確認した。

### 2. 2013 年度法人事務・会計実務研修会の講師人選について

前回より継続審議であったが、法人事務クラスの講師が見つからないため、今年度の法人事務・会計実務研修会を中止とし、今後の常任委員会において、来年度の研修会の内容、講師等について継続して協議する。

近日中に研修会および法人事務について、佐藤丈史顧問に意見を伺う。

なお、各加盟団体には今年度研修会中止の連絡を会報と共に送付する。

### 3. 教会会計基準の配布方法確認について

佐藤顧問より、各加盟団体に 2 部ずつ送ること、また、会計基準は対外的な証であるとの説明を受けたことから、各加盟団体への送付は、基準と説明のページを印刷したものと、記入例などのデータを入れた CD とすることを承認した。

### 4. 次回委員会日程

当初は 9 月 27 日としていたが、下記の通り日程を変更する。

#### 2013 年度第 3 回常任委員会

2013 年 10 月 24 日（木） 14:00—17:00 ルーテル市ヶ谷センター 2 階議長室

議題 ①来年度の法人事務・会計実務研修会について

②2013 年度第 2 回定例会について

③その他

## 中央協議会事務局

### ■総務

#### 12 月会議予定

2 日（月）	典礼委員会定例会議	日本カトリック会館
3 日（火）	正義と平和協議会定例会議	〃
4 日（水）	第 49 回財務委員会	〃
4 日（水）	典礼音楽担当部門第 23 回会議	〃
5 日（木）	常任司教委員会	〃
5 日（木）	第 2 回新福音化委員会	〃
6 日（金）	カリタスジャパン打合わせ	〃
12 日（木）	カリタスジャパン援助審査会	〃
14 日（土）—15 日（日）	日本カトリック障害者連絡協議会役員会	〃
20 日（金）	『司牧の手引き』編纂特別委員会	カトリック広島司教館

教皇フランシスコへの日本招待状

敬愛するフランシスコ教皇様

わたしたち日本の教会の信徒一同は、教皇様が3月の教皇就任以来、ペトロの後継者として全世界の教会を、新しい息吹でもって導いてくださっていることに、心から感謝しています。

わたしたち日本の教会は、キリストの代理者、司教団のかしらであり、神の民を導く普遍教会の牧者である教皇様を日本にご招待し、教皇様より日本人々に直接、神の愛といのちの福音のメッセージをいただき、教皇祝福をいただきたく思います。ここに、私は、日本カトリック司教協議会会長として、日本司教団の総意でもって、教皇様の日本訪問を謹んでお願い申し上げます。

わたしたち日本の教会は、教皇様が強調しておられる貧しい人々とともに生きる教会の使命をともに分かち合い、この使命を教皇様とともに生きたいと心から強く望んでいます。そして、教皇様の訪問を受けて、日本の教会が新しい福音宣教に挑むための力と恵みを、父である神からいただくことを熱望いたします。わたしたちは、教皇様の訪問を必ずや大きな喜びのうちに迎えます。

どうか教皇様、聖務にご多忙と思いますが、是非、日本の教会の切なる願いをお聞き届けくださいますよう、お願いいたします。

2013 年 10 月 4 日

日本カトリック司教協議会 会長  
カトリック東京大司教  
ペトロ 岡田武夫

教皇フランシスコへの日本招待状 英語版

CBCJL13-37  
October 4, 2013

Your Holiness, Pope Francis,

The hearts of all the faithful in the Church of Japan are deeply appreciative that, beginning with your election as the successor of Peter in March, Your Holiness has guided our worldwide Church with a breath of new life.

We, the Church of Japan, invite you Holy Father, as the Vicar of Christ, as the Head of the Bishops, as the Shepherd of the Universal Church who leads the People of God, to visit Japan so that the people may hear directly from you the Gospel message of God's love and life and receive your blessing. By this letter, I as the President of the Bishops' Conference of Japan, with the

support of the entire Bishops' Conference, humbly and respectfully request that Your Holiness come to visit Japan.

We, the Church of Japan, strongly desire to dialogue and live, together with you Holy Father, the heartfelt mission that you have so strongly emphasized, namely, that we be a Church that lives together with the poor. In addition, through your visit Holy Father, the Church of Japan fervently hopes to receive from God our Father, the strength and grace needed to undertake the New Evangelization. Therefore, we will surely welcome a visit by you Holy Father with great joy.

Holy Father, we know that you are very busy with your holy ministry, but by all means, we ask that you kindly consider this sincere request from the Church of Japan.

With thanks for your understanding and guidance and prayerful best wishes, I am  
Yours devotedly in Our Lord,

Peter Takeo Okada  
President of the Catholic Bishops' Conference of Japan  
Catholic Archbishop of Tokyo

---

## 教皇フランシスコへの日本招待状 添付文書

添付

私は、教皇様に日本訪問を願うにあたり、現在の日本の教会について御説明いたします。

### はじめに

教皇ベネディクト十六世の自発教令『信仰の門』の呼びかけに応じて、わたしたち日本の教会は全世界のカトリック教会とともに「信仰年」を歩んでいます。現代の日本の社会には、少子高齢化、経済の低迷、家族関係や人間関係の問題、いじめ、自死、原発問題など、さまざまな困難があり、多くの人が悩みや苦しみを抱えて生きています。わたしたちはこの「信仰年」に、人々の生きる意味と救いを求める声なき叫びに謙虚に耳を傾け、「主のもとにとどまり、主とともに生きようとする決断」(『信仰の門』10)を新たに、自らの言葉と行いで信仰をあかすよう努力しています。

### 1. 東日本大震災からの復興に寄り添う

2011年3月11日の東日本大震災と福島第1原発事故から2年半が過ぎました。被災地の復興はまだまだ進んでいません。現在もなお、多くの被災者・避難者の方々が将来の不安を抱え、不自由な生活を強いられています。

大震災直後には、ベネディクト十六世教皇様から暖かいお見舞いと励ましのお言葉をいただきました。また、全世界の教会からもたくさんの励ましと義援金をいただき、感謝しています。

日本の教会はカリタスジャパンとともに、3教会管区のオールジャパンで、被災地の復興支援を行っています。被災された方々から「寄り添う大切さ」「一緒に生きる喜び」「未来への希望」を教えられる体験は、わたしたち日本の信徒が信仰と生活のあり方を大きく問い直す機会になっています。日本の教会は大震災の

体験を通じて、神がわたしたちの信仰に新たな光を与えてくださっていることを強く感じています。

## 2. 日本教会の再宣教 150 年と信徒発見

日本の教会は、「信仰年」開始の 2012 年に、日本再宣教 150 年を記念しました。1549 年のフランシスコ・ザビエル渡来によって築かれた初期の日本の教会は厳しい迫害を受け、長崎の 26 聖人など多くの殉教者を輩出しました。そして、17 世紀初頭の江戸幕府の厳しい禁教政策によって、日本は鎖国状態になりました。それから約 250 年後の 1862 年 1 月 12 日、日本の宣教に関心を持つ教皇ピオ九世によって派遣されたパリ外国宣教会によって、横浜に、日本再宣教を象徴する聖心教会が献堂されたのです。また、ローマでは同年 6 月 8 日に同教皇によって、26 殉教者が列聖されました。(続いて 1867 年には 205 殉教者が列福されました。) わたしたちは 150 年前に、世界の片隅の小さな島国である日本の再宣教のために、ローマ教皇をはじめヨーロッパの教会が心を合せて祈ってくれていたことに感謝し、普遍教会との絆を確認しました。

さらに、来る 2015 年は、長崎での信徒発見の出来事から 150 年目を迎えます。パリ外国宣教会によって長崎大浦に教会堂が完成した翌年の 1865 年 3 月 17 日、浦上村の潜伏していた信徒たちが訪れて、宣教師にカトリック信仰を告白しました。こうして禁教下で 250 年間、数世代にもわたって、信徒だけで脈々と信仰を守り伝えてきた「潜伏キリシタンたち」の存在が明らかになりました。わたしたち日本の教会は、神が日本のために備えてくださった驚くべき救いの歴史を振り返り、その同じ信仰の血が、現代のわたしたちに脈々と流れていることを忘れることはできません。教皇福者ヨハネ・パウロ二世が 1981 年来日の折、「日本の教会は、殉教者の血を土台としている」と言われたとおりです。同教皇によって 1987 年には聖トマス西と 15 殉教者が列聖され、2008 年にはベネディクト十六世教皇からペトロ岐部と 187 殉教者が列福の恵みをいただきました。

また 2015 年は、列聖運動を行っている戦国時代のキリシタン大名ユスト高山右近 (1552~1615 年) のマニラでの殉教 400 年目に当たります。右近は、日本の教会に送られた神の器であり、右近の列聖は必ずや現代のわたしたちの生き方に、そして現代の教会の行く手に、大いなる光を投げかけてくれるでしょう。一日も早く右近が列福されるように日本の教会は祈っています。

## 3. 被爆地日本の平和への歩み

1945 年広島と長崎に原子爆弾が投下されて、2015 年は 70 年目を迎えます。日本の教会には、戦争の愚かさや原爆の悲惨さを伝え、核兵器の廃絶を世界に訴え続ける使命があります。1981 年に来日された教皇福者ヨハネ・パウロ二世は、広島で有名な「戦争は人間のしわざです」で始まる平和アピールをしてくださり、日本の平和運動に大きな示唆と励ましをお与えくださいました。

また、2011 年東日本大震災によって引き起こされた福島原発事故によって、海や大地が放射能に汚染され、9 万人の住民が生活を奪われ避難し、不安におびえた生活を余儀なくされています。日本の教会はあらためて、人間の原子力利用の非倫理性、非福音的、非人間性を学びつつ、また原発事故により引き起こされる世界的な環境汚染への責任も痛感しています。2011 年に日本司教団は即時原発廃止を訴えました。

日本には自然と共生してきた文化と知恵と伝統があり、神道や仏教などの諸宗教にもその精神があります。わたしたちキリスト者には、何よりも神から求められる生き方、つまり「単純質素な生活、祈りの精神、すべての人々に対する愛、とくに小さく貧しい人々への愛、従順、謙遜、離脱、自己犠牲」(教皇パウロ六世『福音宣教』N.76) などによって、福音の真正なあかしを立てる務めがあり、この福音的精神に基づく単純質素な生活様式を、今こそ選び直すべきだと、日本の人々に訴えています。

以上、教皇様の訪日を念頭において、日本教会の主な宣教課題を申し上げました。

もし、教皇様の日本訪問が叶うなら、大震災被災地の仙台教区を訪問され、被災地の人々を慰め励まし、また福島の実状をご覧くださり、広島・長崎での平和メッセージをお聞かせください。わたしたち日本の教会は、教皇様が強調しておられる貧しい人々とともに生きる教会の使命を真摯に受けとめ、ともに分かち合い、平和の使徒としてこの使命を教皇様とともに生きたいと心から望んでいます。

## Appendix

On the occasion of inviting the Holy Father to visit Japan, I would like to offer a brief explanation of the situation in the Church of Japan at the present time.

### **Introduction**

In response to the call of Pope Benedict XVI in the Apostolic Letter, “Porta Fidei” we of the Church of Japan, along with all the other Catholic churches throughout the world, began to commemorate the “Year of Faith”. Presently in Japanese society, many people are living with much suffering and many difficulties because we have an aging society with few new births, an economic downturn, problems with interpersonal relationships and within families, bullying in the schools, suicides, the nuclear power plant problem, and a variety of other difficulties as well. During this year of faith, we are humbly turning our ears to the silent screams of people seeking to find salvation and to know the meaning of life. By endeavoring to bear witness to the faith through our own words and actions, we hope to renew our decision “to stand with the Lord so as to live with him,” (Porta Fidei No.10).

### **1. Accompanying Presence during the Reconstruction of the Great East Japan Earthquake and Tsunami**

Two and a half years have passed since the Great East Japan Earthquake and the Fukushima No. 1 Nuclear Power Plant accident. Reconstruction in the affected areas has still not made much progress. Even now many of the victims and evacuees have many anxieties concerning their future and have been forced to live in very inconvenient situations.

Immediately after the earthquake we received aid and warm words of sympathy and encouragement from Pope Benedict XVI. In addition, we are grateful because we received much encouragement and many donations from churches all over the world.

The Church of Japan, composed of three provinces under the name, “All Japan”, with direction from Caritas Japan, is doing reconstruction assistance in the affected areas. From people in the affected areas words like: “the importance of your presence,” “the joy of living together,” “having hope for the future” has become the occasion for Japanese Catholics to reconsider in a big way the connection between faith and our way of living. The Church of Japan feels strongly that, through our experiences of the Great East Japan Earthquake and Tsunami, God is giving us a new light in which to view our faith.

### **2. 150 Years Since the Reopening of Evangelization and the Discovery of the Hidden Christians**

The Church of Japan, in the opening year of the Year of Faith in 2012, was also commemorating 150 years since the reopening of Japan for evangelization. The early church period in Japan, which began with the arrival of Francis Xavier in 1549 and the development of the

Church, experienced severe persecution that produced the twenty-six saints of Nagasaki and scores of other martyrs. In the early part of the seventeenth century, under the strict policies of the Edo Shogunate, Christianity became a prohibited religion, and Japan became a closed country. About 250 years later, the Paris Foreign Missionary Society was sent to Japan by Pope Pius IX who had a very keen interest in missions. He sent them to Yokohama where they consecrated the Sacred Heart Church, which became the symbol for reopening missionary activity in Japan. In addition, on June 8<sup>th</sup> of that same year, the same Pope canonized the 26 martyrs of Nagasaki, (then again in 1867, 205 more martyrs were beatified). We feel deeply grateful and assured of our deep bonds with the universal church, because 150 years ago, in order to reopen evangelization in Japan, the Roman Pope and the churches of Europe took a small island nation at the far corner of the world to heart through prayer and renewed missionary activity.

In addition, in 2015, we will be celebrating 150 years since the discovery of the Hidden Christians in Nagasaki. On March 17, 1865, the year after the church was completed by the Paris Foreign Missionary Society in Oura; a group of the faithful who had been hiding in the village of Urakami visited and proclaimed their Catholic faith to the missionaries. The actual existence of these “Hidden Christians”, all of them members of the laity, who had from generation to generation for 250 years, under strict prohibition, bravely protected and proclaimed their faith, was now clearly established as a historical fact. We, the Church of Japan, when looking back on this amazing history of salvation prepared for Japan by God, must never forget that the blood of this same faith is still pulsing and flowing through us who are alive today. What Blessed Pope John Paul II, at the time of his visit to Japan in 1981, stated is very true: “The Church of Japan has its foundation in the blood of the martyrs.” We received additional grace in 1987, when this same Pope canonized St. Thomas Nishi and 15 other martyrs and again in 2008, when Pope Benedict XVI beatified Peter Kibe and 187 other martyrs.

Furthermore, in 2015 it will be the 400 anniversary of the martyrdom in Manila of Justus Takayama Ukon (1552~1615), who was a Christian Daimyo from the Sengoku Period (civil war era) in Japan and for whom there is currently a movement for beatification. Since Ukon was God’s vessel sent to the Church of Japan, his beatification would throw a great reflective light upon our modern way of living and help highlight the future path that our present day church must travel. The Church of Japan is praying that Ukon may be beatified as soon as possible.

### **3. Steps Towards Peace by Atomic Bombed Japan**

Since the atomic bombs were dropped on Hiroshima and Nagasaki in 1945, we will be commemorating the 70<sup>th</sup> anniversary of the bombing in 2015. The Church of Japan has the on-going mission of conveying to the world the horrors of the atomic bomb, the stupidity of war and appealing for the abolition of nuclear weapons. When Blessed Pope John Paul II came to Japan in 1981, he made an appeal for peace in Hiroshima which began with the famous words, “War is the work of man.” This visit was a great support and offered directional hints for the peace movement in Japan.

Moreover, the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami, which caused the nuclear accident in Fukushima, contaminated the sea and land with radioactivity causing 90,000 residents to lose their livelihoods and become evacuees, and forced people to live a life in fearful anxiety. Here once again the Church of Japan, while continuing to learn about the non-evangelical, inhumane and unethical use of nuclear power by mankind, is painfully aware that we must take responsible action in regard to the worldwide environmental pollution that was caused by the nuclear accident. In 2011, the Bishops’ Conference of Japan appealed for the immediate closure and

abolition of all nuclear power plants.

In Japan there is a culture, wisdom and tradition that espouse a symbiotic relationship with nature, which is an inherent part of the spirit of Shinto, Buddhism and many other religions. For us as Christians, more than anything else, there is the need to live in a way guided by God, which means, “simplicity of life, a spirit of prayer, charity towards all, especially towards the lowly and the poor, obedience and humility, detachment and self-sacrifice,” (Pope Paul VI, Evangelii Nuntiandi No. 76). All of which serves to give a genuine witness to the Gospel. Now is the time when the Church of Japan should re-opt for a simple and frugal life, based on the spirit of the Gospels, which would be very appealing to the people of Japan.

I have written the above concerning the main issues of the Church of Japan in regard to evangelization, with the idea of a possible visit by the Holy Father to Japan.

If a visit to Japan by the Holy Father should become a reality, it could include a visit to Sendai Diocese, site of the Great East Japan Earthquake and Tsunami, which would be a great encouragement and comfort for the people there. In addition the Holy Father could see with his own eyes the effects of the nuclear disaster in Fukushima and make an appeal for peace in Hiroshima and Nagasaki. The Church of Japan takes very seriously its mission to live with the poor, which has been emphasized by the Holy Father. As apostles of peace, it is our heartfelt desire to share in and to live out this mission together with the Holy Father.

カトリック中央協議会 「会報」 2013年12月号 (通巻508号)

発行日 2013年11月20日

発行 宗教法人カトリック中央協議会 <http://www.cbcj.catholic.jp>

〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 電話 03-5632-4411 Fax 03-5632-4457